国内避難民キャンプ内にある給水所

ASSIST AFRICA

アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダ、シエラレオネで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊（350円）購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://peace-winds.org/

**タウトクでは毎号、
アフリカの国内避難民・難民支援事業へ
送金した金額＝タウトクの販売部数×3円を
読者のみなさんにお知らせします。**

タウトク2月号の販売部数

5,265部×3円=15,795円

を支援金としてPWJを通じアフリカの
国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ®
タウトク
medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

「水・衛生・保健の3分野での人道支援」
～紛争続く南スーダンでの緊急支援活動～

2011年に隣国スーダンから独立した南スーダンでは今なお国内各地で紛争が続いているため、現地の人々は多くの困難に直面しています。独立して間もない2013年には反政府組織による内戦が勃発。2015年に平和協定が締結されましたが、翌年2016年に再び紛争が発生したことで、国外への難民や国内で避難生活を余儀なく送る国内避難民が増えています。紛争による影響で国内避難民や帰還民、周辺ホストコミュニティは社会から取り残され、支援が行き届いているとは言い難い状況が続いています。

ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）は、南スーダンの現地パートナー団体と協力し、水と衛生、保健分野での緊急・開発支援を実施しています。首都ジュバとジョングレイ州の国内避難民と周辺ホストコミュニティへ行っている支援は3つあります。

1つ目は、安全な水の供給です。水の供給を確実にするためPWJは、壊れた給水所や井戸の修理・点検、新しい井戸の掘削・設置を行っています。また、エンジニアによる技術研修を実施することで管理者の能力強化も支援しています。南スーダンではコレラなど飲み水を原因とする感染症の蔓延は深刻な問題であり、これらの支援で安全な飲み水を供給することで病気の発生を防ぐことができます。

PWJスタッフによる手洗い研修

2つ目は、トイレなどの衛生環境を整えることです。飲み水と同じように劣悪な衛生環境は多くの病気をもたらす原因となります。そのため、PWJは国内避難民キャンプや学校トイレの建設と修繕、家庭用トイレの製作と配布を行っています。また、建設や修繕だけでなく、学校保健クラブへの手洗い研修などを実施することで衛生的な生活習慣の啓発も支援しています。

完成した保健センターのトイレ

そして3つ目は、紛争により提供できなくなった保健サービスの再開です。破壊された保健センターおよび施設内のトイレを修繕し、看護師や助産師などの保健スタッフを雇用することで、保健サービスを再開することができました。そして必須医薬品や医療機材・資材を継続的に提供することで、日々の運営にも貢献しています。その結果、これまで14,000人以上が様々な治療を受けることができ、500人以上の子ども達が予防接種を受けることができました。これらの支援活動に対し、保健センターがあるジョングレイ州の保健大臣からは「この地域ではPWJが提供した適切な保健サービスのおかげで一般的な病気の発生率が大幅に減少することができました。とても感謝しています」とコメントを寄せていただきました。

提供した医薬品

このようにPWJは多くの支援を行ってきましたが、それでもなお現地では数多くの課題が残っており、多くの人々は困難な状況に置かれています。南スーダンの人々が健康で安全な生活を送ることができるように、私達はこれからも人道支援を続けていきます。

南スーダン現地事業責任者
アルナ イブラヒム ジャー（Aruna Ibrahim Jah）

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。